

家庭で行う新型インフルエンザ対策

1 新型インフルエンザとは

動物、特に鳥類のインフルエンザウイルスが人に感染し、人の体内で増えることができるようになり、人から人へと効率よく感染できるようになったウイルスが感染して起こる疾患を言います。

新型インフルエンザは未知のウイルスであるため、ほとんどのヒトは免疫を持たず、急速な世界的大流行（パンデミック）を起こし、多くの死亡者が出る可能性があります。

2 新型インフルエンザと類似疾患の違い

	風邪症候群	季節型インフルエンザ	新型インフルエンザ
流行期	通 年	毎年冬	10～40年に1回
ウイルス型	ウイルス感染・細菌感染等様々 200種以上	A型（H1,H3）、B型、C型 免疫あり	A（H5,H7,H9）が想定される 人類の多数が未経験で免疫無し
症 状	咳嗽・咽頭痛・鼻汁・鼻づまり等 の局所症状、発熱・倦怠感・頭痛 等の全身症状	38 以上の高熱 関節・筋肉痛・全身症状 咳等の呼吸器症状	予測困難・鳥インフルエンザ （H5N1）の場合38 以上の 高熱、嘔吐・下痢等を含む インフルエンザ様疾患
潜伏期間		2～5日	予測困難（8日程度？）
致死率		0.1%以下	推定数% 最小：旧インフルエンザ（1%弱） 最大：鳥インフルエンザ（60%）
治療薬	多 数	数 種	抗インフルエンザ薬*が重症化 防止に有効と期待されている。
ワクチン		毎年流行予測薬を任意接種	鳥インフルエンザ（H5N1）を 基にプレパンデミックワクチン が開発され臨床実験中。

* 新型インフルエンザ重症化防止のための抗インフルエンザ薬の備蓄は、現在、人口比23%程度。厚生労働省はこの備蓄量を40～50%に引き上げる予定。

* 風邪とインフルエンザの症状等は明らかに異なります。

3 新型インフルエンザの流行予測

感染は2週間で、全国に広がり、感染者数は36万人。感染ピークは2ヶ月。（国立感染症研究所試算）

新型インフルエンザが流行すると、4人に1人が感染し、致死率は数%、企業では従業員の約4割が数週間欠勤。（日本政府・厚生労働省報道）

発生時に、学校閉鎖・鉄道運休・流行前ワクチン接種の3対策を行えば、感染を3分の1に軽減できる。（国立感染症研究所及び民間2社共同研究）

人の動きを制限する対策は、過去の例から感染者数に2倍の差が見られたことから重要。（WHO）。北部九州圏で新型インフルエンザが発生すると、10日で感染者が1万人に上るが、外出自粛策を取った場合、感染を約85%減らすことができると試算。（国立感染症研究所）

4 情報提供サイト及び問い合わせ先

- ・厚生労働省（新型インフルエンザ） <http://www.mhlw.go.jp/>
- ・農林水産省（鳥インフルエンザ） <http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/>
- ・国立感染症研究所（専門情報） <http://www.nih.go.jp/niid/index.html>
- 同研究上（感染症情報センター） <http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>
- ・検疫所 <http://www.forth.go.jp>
- ・長崎県福祉保健部医療政策課 <http://www.pref.nagasaki.jp/iryuu/index.php>

不明点のお問い合わせ先 対馬保健所 0920-52-0166 / 対馬市健康保健課 0920-58-1116